

クリニックレター 2021年10月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

#) 10月からインフルエンザワクチン接種を開始します。ただ、今シーズンのワクチンの生産量が例年に比べて7割程度とのことで、当院でも約200名様分の確保が精一杯という状況です。このような事情から、10月中のインフルエンザワクチンのご予約は65歳以上の方に限らせていただき、64歳以下の方につきましては、11月以降の予約とさせていただきますので、ご了承のほどお願い申し上げます。

本当の漢方治療とは その2

前月号では、漢方特有の診察によって得られた情報をもとに患者様の状態を見極める事(=四診合参)こそが、漢方治療の本質である、というお話をしました。ここで、「四診」についてもう一度簡単にまとめますが、問・聞・望・切、即ち、

問診：患者様の訴えを聞き医師からも必要な質問をすること。今でいう医療面接です
聞診：患者様の声や呼吸の様子を耳で聞き、臭いを感じる事。昔から、「香りを聞く」という奥ゆかしい言葉がありますね。

望診：患者様の様子、動き、皮膚や目などの様子を目で見る事。この中に「舌」の診察が含まれます。

切診：患者様に直接手を触れて診察をすること。特に腹部の診察は「腹診」と言って日本漢方独特の診察法です。

であり、我々現代の漢方医はそれらに加えて、様々な現代医学的データや患者様の生育歴、現在の生活環境などを視野に入れながら、病態の解析をおこないます。この一連の作業が終わったら、今度は治療方針の決定に入ります。主に用いられるのは漢方薬です。現在、保険診療で用いられる医療用漢方エキス製剤は148処方ですが、患者様の病態は単純にこれら148タイプに分けられるはずもなく、必要な方には、複数のエキス剤を理想の形になるように配合したり、煎じ薬での処方を提案したりします。煎じ薬というのは、医師が処方した生薬の組み合わせを患者様がお家で熱水抽出して(=煎じて)飲んでいただくものですが、健康保険を適応できる「生薬」の数は約270種類もあり、これらの組み合わせることで、より患者様の病態にあったオーダーメイドの漢方処方を作り上げることができるのです。

ここで、「生薬」について少し説明をおこないます。生薬とは漢方処方を構成する一つの薬物であり、その多くが、「草根木皮」即ち、植物の茎や根、花弁、果実、種子などを用います。(その他、鉱物資源が用いられることもあります。)例えば、不安神経症などでよく用いられる「柴胡加竜骨牡蠣湯(サイカリアリウツホレイトウ)」という処方

には、10種類の生薬が配合されていますが、その内容は、

① 柴胡(サイカシ)：セリ科ミシマサイコの根) ② 半夏(ハルガ)：サトイモ科カラスビシャクの根茎) ③ 黄芩(ワヅ)：シソ科コガネバナの根)



④ 人参(ニンジ)：ウコギ科オタネニンジンの根) ⑤ 大棗(ダイソウ)：クロウメモドキ科ナツメの果実) ⑥ 生姜(ショウガ)：ショウガ科ショウガの根茎) ⑦ 茯苓(フクリョウ)：サルノコシカケ科マツホドの外層を除いた菌核) ⑧ 桂皮(ケイヒ)：クスノキ科ケイの幹皮) ⑨ 竜骨(リウコウ)：古代の大型動物の化石) ⑩ 牡蠣(カキ)：イタボガキ科マガキの貝殻)であり、またそれぞれに、「性味」といって味はどうか、体を温めるか冷やすか、「帰経」といって体のどの部分に主に作用するか、が定められています。上記の生薬のうち、生姜や大棗、桂皮(肉桂=シナモン)などは食物としても用いられますが、たとえば桂皮の場合、「性味」は辛・甘、大熱で「帰経」は肝腎心脾胃と定められています。生薬に関して記載された書物で最も古いものには《神農本草経》(シノリホウキョウ)：西暦200年頃)がありますが、16世紀後半に中国の李時珍(1518-1593)によって編纂された「本草綱目(ホウコウワウキョウ)」は1892種の生薬について解説したもので、中国本土だけでなく朝鮮半島、日本、欧州などでも翻訳出版された名著です。かの南方熊楠が幼少時に写本したことで知られていますし、近代では、日本植物学の父と言われる牧野富太郎が青年期に「本草綱目啓蒙」に出会ったことをきっかけとして本草学に傾倒したことも有名です。牧野富太郎については、高知市の高知県立牧野植物園内にある牧野富太郎記念館において本草綱目も含めた多くの蔵書や彼の生涯に関する展示があり、興味のある方にとっては必見かと思えます。また、「人参」については、クリニックレター2014年12月号で詳しく書いていますが(当院ホームページでクリニックレターのバックナンバーがご覧いただけます)、漢方で使う人参は、普段の料理で使う西洋人参とは全く別物で、「性味」は甘・微苦、微温「帰経」は肺・脾で、「気」を補う代表的な方剤として知られており、多くの漢方方剤に含まれています。国内の産地は、長野県佐久地方や福島県会津市周辺、島根県の大根島などですが、現在、医療用の高麗人参はほとんどが輸入品に頼っています。私は以前、韓国の人参の産地として有名な錦山郡を見学したことがあります。ちょうど村を挙げての人参祭りがおこなわれていて町中に人参の香りが漂い、それだけで元気が湧き出てくるような気がしたのを覚えています。もちろん現地で本場の参鶏湯(サゲタウ)を味わったのは言うまでもありません^^。

患者様へのお知らせとお願い

#) 心療内科外来は初診30分、再診10分の診療枠を設けております。特に初診枠は原則一日一枠とさせていただいておりますので、予約をお待ちいただく方も多くいらっしゃいます。直前の診療キャンセルがありますと、他の患者様にもご迷惑がかかりますので、万が一ご都合が悪くなられた場合は、なるべく早くご連絡をいただき、当日のキャンセルはなるべく避けていただくようお願いいたします。

#) 10月5日(火)午後を休診とさせていただきます。

#) 連休の前夜や、2診の日など、待合室が混雑する日がございます。検査がある方などは午前中の来院をお願いする場合がありますが、再診のみの方はどうぞ午後の診療枠もご利用ください。

お車で来院される患者様へ

歩行者や近隣の方の迷惑になりますので、駐車場の指定されたスペース以外、及び、クリニック周辺の道路には、絶対に車を駐車されないようにお願いします。駐車場でのごアイドリングもおやめください。